

2025年度

授業計画

2学年

(歯科衛生士科Ⅱ部)



日本ウェルネス歯科衛生専門学校

目 次

医療倫理	1
日本語表現法Ⅱ	2
コミュニケーション論Ⅱ	3
歯科衛生統計	4
衛生行政・社会福祉	5
歯内療法学	6
歯周治療学	7
歯科補綴学	8
口腔外科学	9
歯科矯正学	10
歯科麻酔・全身管理学	11
歯科放射線学	12
高齢者歯科学	13
障害者歯科学	14
歯科予防処置Ⅲ	15
歯科予防処置Ⅳ	16
歯科保健指導Ⅱ	17
歯科保健指導Ⅲ	18
歯科診療補助Ⅲ	19
歯科診療補助Ⅳ	20
臨地・臨床実習Ⅰ	21
歯科保険請求事務	22
総合臨床1	23
総合臨床2	24

■科目	医療倫理	■講師名	遠藤 弘康
II部 2学年	中期	8コマ (1コマ 90分授業)	総時間 15時間 講義 1単位
■学修概要			
本講義は、歯科医療および臨床研究を行うために、医療倫理の重要性を理解することにある。			
■授業目的、到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 患者との信頼関係に基づく医療サービスを提供できるように、インフォームド・コンセントや生活の質 (QOL) について学習する。 患者との人間関係だけでなく、歯科医師や同僚たちとも円滑な連携を保つことのできる能力を学習する。 医療倫理とともに生命倫理についても理解を深めることを学習する。 			
■授業方法			
講義・実習			
■教科書 (書籍名・著者・出版社)			
歯科衛生学シリーズ／歯科医療倫理学 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
総合評価			
■実務経験			
担当教員は、20年以上の臨床経験があり、大学では医療倫理の講義の経験がある。			
■授業計画 (講義の流れ)			
1	なぜ医療倫理を学ぶのか		
2	医療倫理に関する規範とバイオエシックス		
3	インフォームド・コンセント		
4	研究と医療倫理		
5	歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動		
6	医療歯科医療従事者に必要とされること		
7	まとめ		
8	定期試験、解答解説		

■科目	日本語表現法Ⅱ	■講師名	清水秀子
Ⅱ部 2 学年	前期 8 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 15 時間	講義 1 単位
■学修概要			
歯科衛生士に求められる基本的な文章力、表現力を習得する。基礎的技法を習得し、臨床および公衆衛生、または年齢対象別等さまざまな状況に十分に対応し得る表現力を培い実践できるようにする。			
■授業目的、到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士に求められる基本的な文章力や表現力を習得する。 ・臨地・臨床実習で活用できる技法の習得を目指す。 			
■授業方法			
講義、演習 (グループワーク、グループディスカッション、発表)			
■教科書 (書籍名・出版社)			
講師による資料等で対応			
■成績評価・講義上の注意			
定期試験、出欠席、授業態度、課題の他、以下の項目による総合的な評価を行う。			
<p>グループワーク・グループディスカッション： グループとしての行動の内容、協力度、達成度</p> <p>発表： 準医療従事者としての身だしなみや態度、発表の技術、発声、参加することへの積極性</p> <p>課題： 提出期限、内容、自学自習のクオリティ</p>			
■実務経験			
歯科衛生士として 10 年以上、臨床及び教育現場で歯科衛生士や学生の教育に携わる。			
臨地・臨床実習施設での従事の際は、各種書類作成にも長きに亘り携わる。			
■授業計画 (講義の流れ)			
1	文章作成①		
2	文章作成②		
3	文章作成③		
4	臨地・臨床実習で何を学ぶか考える		
5	臨地・臨床実習 自己紹介文作成		
6	臨地・臨床実習ノート 1： 基礎的な記入方法		
7	臨地・臨床実習ノート 2： 実習ノートの効果的な活用と記入方法		
8	定期試験		

■科 目	コミュニケーション論Ⅱ	■講師名	猪島 恵美子
II部 2 学年	中期 15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 15 時間	講義 1 単位
■学修概要			
コミュニケーション論の理念を理解し、医療の現場で効果的かつ適切なコミュニケーションがとれるスキルを学修する。			
■授業目的、到達目標			
コミュニケーション論を概説できる 状況に応じたコミュニケーションスキルを実践できる 傾聴力、柔軟性をもつことができる			
■授業方法			
講義・演習			
■教科書 (書籍名・出版社)			
講師による資料等で対応			
■成績評価・講義上の注意			
出席状況、授業態度、課題提出による総合評価			
■実務経験			
一般歯科医院での歯科衛生士業務の実務経験があり、かつ歯科衛生士学校の専任教員として基礎実習の担当も行っている。全国歯科衛生士教育協議会では教育委員を務めており、歯科衛生教育学会、歯科衛生学会に所属している。			
■授業計画 (講義の流れ)			
1	医療従事者としてのコミュニケーション①		
2	医療従事者としてのコミュニケーション②		
3	医療従事者としてのコミュニケーション③		
4	医療現場で必要な能力①		
5	医療現場で必要な能力②		
6	医療現場で必要な能力③		
7	医療現場で必要な能力④		
8	まとめ		

■科 目	コミュニケーション論Ⅱ	■講師名	各担当講師 / 専任教員
II部 2 学年	前期	15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 15 時間 講義 1 単位
■学修概要			
<p>専門企業による美容分野・審美歯科の講義・演習を通じて、同分野で活躍する歯科衛生士を育成する。</p> <p>審美歯科に従事する歯科衛生士の業務内容を知り将来像を明確にする。</p>			
■授業目的、到達目標			
<p>美容分野での審美歯科専門企業にて活躍されている歯科衛生士からの講義・演習を通して実践的な知識・技能・態度を習得する。</p>			
■授業方法			
講義・演習・実習			
■教科書（書籍名・出版社）			
講師による資料等で対応			
■成績評価・講義上の注意			
出席を前提として、授業態度、課題提出、実技試験による総合評価			
■実務経験			
専門企業：ホワイトエッセンス（株）で審美歯科と長きに渡り携わる。その実績と経験に基づき幅広い視点から社員教育、学生教育を行う経歴をもつ。			
■授業計画（講義の流れ）			
9	歯科衛生士の役割と患者待遇について		
10	<p>審美歯科 1 世間需要の高まり、保険との役割の違い</p> <p>ホワイトニングの歴史と提案すべき症例</p>		
11	<p>審美歯科 2 歯が白くなるメカニズムと安全性 / ホワイトニングの種類</p> <p>自分の歯色のシミュレーション体験</p>		
12	<p>審美歯科 3 ホワイトニング剤と照射器の知識</p> <p>シェードガイドの使用方法</p>		
5	<p>審美歯科 4 ホワイトニング実習：アングルワイダーの装着の仕方</p> <p>ホワイトニング薬剤の混和・塗布・清拭 / 照射器の取り扱い</p>		
13	<p>審美歯科 5 ホワイトニング実習：歯面研磨（器具の操作方法、圧力のかけ方）</p> <p>施術の一連の流れを通し練習</p>		
14	<p>審美歯科 6 ホワイトニング施術の一連の流れでの実技試験</p> <p>（認定書授与）</p>		
15	定期試験（課題：レポート）		

■科 目	歯科衛生統計	■講師名	田中 入
I 部 2 学年	前期 8 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 15 時間	講義 1 単位
■学修概要			
IT が社会に普及した結果、現代では各個人がパーソナル PC あるいはスマートフォンを 1 台または複数台保持する時代になっている。これらより得る情報はすべて機器データであり、その特性を正しく理解して適切な処理を行う能力は医療界でも必須である。そのため口腔保健に関する各種のデータを解析する知見を養うとともに、地域共生社会における地域包括システム、多職種連携、ACP 等に関する方法論を併せて学ぶ。			
■授業目的、到達目標			
歯科疾患の疫学的特性を理解し、臨床に応用できる力を身につける。また地域歯科保健で得たデータの活用方法について学び、統計学に基づく解析方法を習得してプレゼンテーションを実施する能力を養う。以って国家試験における正答率を向上させ、歯科衛生士として各種より得られた医学的統計データを十分に活用できる学識を修得する。			
■授業方法			
講義、板書ならびにスライド・動画などを活用する。また必要に応じて質疑応答を行い、正答した者には加点を行う。(ただし不正解でも減点は実施しない)			
■教科書（書籍名・出版社）			
最新歯科衛生士教本／歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 3 保健情報統計学 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
本試験（論述筆記形式）、出席率、成書朗読、授業態度（私語・居眠り等）から総合評価する。 なお筆記試験の採点には相対指標を採用する。			
■実務経験			
歯科医師の資格を取得してすぐに予防歯科学への道を進み、大学病院の口腔保健科に 11 年在籍した後もその概念に則した歯科臨床を 20 年以上継続している。歯学博士、日本口腔衛生学会専門医、埼玉県障害者歯科相談医を取得しており、明海大学歯学部客員講師、埼玉県歯科医師会地域保健部副部長および朝霞地区歯科医師会地域保健担当理事を 10 年以上務めている。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	歯科領域における保健情報		
2	国が行う各種の保健統計		
3	疫学とその進め方		
4	歯科領域で用いられる各種の指標		
5	採取標本の分析手順		
6	データの推定と検定		
7	プレゼンテーション時のデータ表現方法		
8	定期試験、解答解説		

■科 目	衛生行政・社会福祉	■講師名	大島 克郎
I 部 2 学年	前期	15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間
■学修概要			
歯科衛生士法を中心に歯科保健医療施策を実施する際の法律や、歯科保健医療に携わる医療関係職種の現状、わが国の社会保障の実態、医療の動向などを捉える。			
■授業目的、到達目標			
歯科衛生士が業務に従事する際、必要な法令を学ぶとともに、衛生行政や社会福祉のしくみについて理解することを目的とする。			
■授業方法			
講義を主体として行う。			
■教科書（書籍名・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／保健・医療・福祉の制度 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
記述式、選択肢式の期末テストにて評価			
■実務経験			
2003 年日本歯科大学大学院歯学研究科修了。日本歯科大学附属病院、厚生労働省などの勤務を経て、2015 年日本歯科大学東京短期大学・教授。現在は、日本歯科大学東京短期大学において、衛生学、衛生行政などの科目を、日本歯科大学生命歯学部において衛生学などの科目を担当している。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	衛生行政の概要・法制概念		
2	歯科衛生士法①		
3	歯科衛生士法②		
4	歯科医師法、歯科技工士法、その他医療関係職種		
5	医療法		
6	薬事関連法規、地域保健関連法規		
7	医療保険制度		
8	年金保険、労働保険、生活保護		
9	介護保険制度		
10	高齢者福祉制度		
11	母子・児童福祉制度		
12	障害者福祉制度		
13	わが国の医療動向の統計		
14	まとめ		
15	定期試験、解答解説		

■科目	歯内療法学		■講師名	金子 博寿
II部 2学年	前期	10コマ (1コマ90分授業)	総時間 20時間	講義 1単位
■学修概要				
歯内療法学では、歯髓疾患および根尖性歯周疾患の病態および治療方法を学修する。特に、歯髓保存領域に関する進歩は目覚ましく、教科書と世界基準の差異を学んでいただきたい。				
■授業目的、到達目標				
①歯髓・根尖性歯周組織疾患の分類と症状・検査法を説明できる。 ②歯髓の保存療法（覆髓法）ならびに除去療法を説明できる。 ③根尖性歯周組織疾患（感染根管）を説明できる。 ④根管治療に用いる器材の使用法を説明できる。 ⑤根管充填法を説明できる。 ⑥外科的歯内療法を説明できる				
■授業方法				
Keynoteによる講義				
■教科書（書籍名・出版社）				
歯科衛生学シリーズ／保存修復学・歯内療法学 医歯薬出版				
■成績評価・講義上の注意				
試験成績、出席、授業態度による総合評価				
■実務経験				
埼玉県蕨市にて蕨セントラル歯科・矯正歯科を開業して27年目となる。地域密着型歯科診療所として小児から高齢者まで幅広い患者層に対応している。日本歯内療法学会専門医、日本歯周病学会認定医として、歯を保存すべく専門的治療も積極的に行っている。また、矯正歯科においては、小児矯正だけでなく成人矯正（審美、歯周病など）の患者さんも多く来院している。近年、ワイヤー矯正だけなくアライナー矯正も多く手がけている。				
■授業計画（講義の流れ）				
1	1. 歯内療法の概要 : 1-1 歯内治療学とは 1-2 象牙質知覚過敏症 1-3 歯髓疾患 1-4 根尖性歯周疾患 1-5 歯内-歯周病変 1-6 歯内療法特有の検査と診断			
2	2. 歯髓保存療法 : 2-1 歯髓保存療法とは 2-2 歯髓鎮痛消炎療法 2-3 覆髓法			
3	3. 歯髓除去療法 : 3-1 歯髓除去療法とは 3-2 生活断髓法 3-3 拔髓法			
4	4. 根管治療 : 4-1 根管治療の概要 4-2 根管治療の術式			
5	5. 根管充填 : 5-1 根管充填の目的と時期 5-2 根管充填材 5-3 根管充填用器具 5-4 根管充填法 5-5 根未完成歯の治療法（アペキソゲネシス、アペキシフィケーション）			
6	6. 外科的歯内療法 : 7-1 外科的歯内療法とは 7-2 外科的歯内療法の術式			
7	7. 歯の外傷 : 8-1 歯の外傷とは 8-2 歯の外傷の分類と処置 8-3 脱離歯の保存法			
8	8. 歯内療法における安全対策ほか : 9-1 偶発事故の予防と対応法 9-2 根管治療後の歯冠修復治療			
9	9. 歯内療法学の総括および定期試験対策			
10	定期試験、解答解説			

■科目	歯周治療学	■講師名	遠藤 弘康
II部 2学年	前期	15コマ (1コマ90分授業)	総時間 30時間
■学修概要			
本講義では、歯周疾患の病因論、診断、治療に関する講義を行い、その重要性を理解することにある。			
■授業目的、到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周組織の構造と臨床所見について学習する。 2. 歯周治療の実際について学習する。 3. 歯周治療の流れと歯科衛生士の役割について理解を深めることを学習する。 			
■授業方法			
講義・実習			
■教科書（書籍名・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／歯周病学 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
総合評価			
■実務経験			
担当教員は、20年以上の臨床・教育経験があり、日本歯科専門機構歯周病専門医の資格を有する。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	歯周治療とは		
2	正常な歯周組織の構造と機能		
3	歯周病の分類		
4	歯周治療の進め方		
5	歯周病の検査1		
6	歯周病の検査2		
7	歯周基本治療		
8	歯周外科治療		
9	歯周外科治療		
10	メインテナンス		
11	歯周治療における歯科衛生士の役割1		
12	歯周治療における歯科衛生士の役割2		
13	歯周治療における歯科衛生士の役割3		
14	まとめ		
15	定期試験、解答解説		

■科 目	歯科補綴学	■講師名 金子 博寿																														
II部 2 学年	前期 15コマ (1コマ 90分授業)	総時間 30時間 講義 2 単位																														
<p>■学修概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補綴装置の種類、製作課程、および補綴歯科治療の臨床ステップを理解する ・補綴歯科治療において歯科衛生士に必要とされる知識を整理する 																																
<p>■授業目的、到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補綴歯科治療を学習する意図を理解する ・国家試験のための勉強と実際の臨床の違いを理解する ・目の前の事象に対して、常に疑問を持つ習慣を身につける 																																
<p>■授業方法</p> <p>スライド</p>																																
<p>■教科書 (書籍名・出版社)</p> <p>歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 医歯薬出版</p>																																
<p>■成績評価・講義上の注意</p> <p>成績評価:出席状況、履修態度および定期試験の点数を総合的に評価する。</p> <p>講義上の注意:積極的に質問をしてほしい。教科書の復習を中心おこなってほしい。</p>																																
<p>■実務経験</p> <p>埼玉県蕨市にて蕨セントラル歯科・矯正歯科を開業して 27 年目となる。地域密着型歯科診療所として小児から高齢者まで幅広い患者層に対応している。日本歯内療法学会専門医、日本歯周病学会認定医として、歯を保存すべく専門的治療も積極的に行っている。また、矯正歯科においては、小児矯正だけでなく成人矯正(審美、歯周病など)の患者さんも多く来院している。近年、ワイヤー矯正だけなくアライナー矯正も多く手がけている。</p>																																
<p>■授業計画 (講義の流れ)</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>歯科衛生士が関わる補綴歯科治療</td></tr> <tr><td>2</td><td>補綴歯科治療の基礎知識①</td></tr> <tr><td>3</td><td>補綴歯科治療の基礎知識②</td></tr> <tr><td>4</td><td>補綴歯科治療における検査</td></tr> <tr><td>5</td><td>クラウンブリッジ①</td></tr> <tr><td>6</td><td>クラウンブリッジ②</td></tr> <tr><td>7</td><td>総義歯</td></tr> <tr><td>8</td><td>局部床義歯①</td></tr> <tr><td>9</td><td>局部床義歯②</td></tr> <tr><td>10</td><td>インプラント</td></tr> <tr><td>11</td><td>特殊な口腔内装置、器材の管理</td></tr> <tr><td>12</td><td>総論 (授業の振り返り)</td></tr> <tr><td>13</td><td>試験対策</td></tr> <tr><td>14</td><td>予備日</td></tr> <tr><td>15</td><td>定期試験、解答解説</td></tr> </table>			1	歯科衛生士が関わる補綴歯科治療	2	補綴歯科治療の基礎知識①	3	補綴歯科治療の基礎知識②	4	補綴歯科治療における検査	5	クラウンブリッジ①	6	クラウンブリッジ②	7	総義歯	8	局部床義歯①	9	局部床義歯②	10	インプラント	11	特殊な口腔内装置、器材の管理	12	総論 (授業の振り返り)	13	試験対策	14	予備日	15	定期試験、解答解説
1	歯科衛生士が関わる補綴歯科治療																															
2	補綴歯科治療の基礎知識①																															
3	補綴歯科治療の基礎知識②																															
4	補綴歯科治療における検査																															
5	クラウンブリッジ①																															
6	クラウンブリッジ②																															
7	総義歯																															
8	局部床義歯①																															
9	局部床義歯②																															
10	インプラント																															
11	特殊な口腔内装置、器材の管理																															
12	総論 (授業の振り返り)																															
13	試験対策																															
14	予備日																															
15	定期試験、解答解説																															

■科目	口腔外科学	■講師名	丹野 咲貴
I部2学年	前期	15コマ(1コマ90分授業)	総時間30時間
■学修概要			
口腔外科で取り扱う疾患及び全身疾患と口腔との関係を学ぶ。 実際の歯科衛生士業務で必要な口腔外科的な基礎知識を修得する。			
■授業目的、到達目標			
顎・顔面・口腔領域に生じる疾患の原因・病態・病状・対応を知り、口腔外科小手術に対する準備や手順について理解する。			
■授業方法			
講義			
■教科書(書籍名・出版社)			
歯科衛生学シリーズ／口腔外科・歯科麻酔 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
定期試験の採点結果を評価対象とする。 なお、最終的な成績は、定期試験の75%以上の多肢選択式客観試験問題の結果に基づくものとする。			
■実務経験			
総合病院の口腔外科、歯科大学病院の口腔外科で12年間臨床経験。現在は歯科診療所に勤務。 口腔外科診療での経験を基に、本教科書と実際の臨床を結びつけるような学習が出来る様考えている。			
■授業計画(講義の流れ)			
1	口腔領域の損傷：歯の外傷、顎骨骨折、軟組織の損傷		
2	口腔領域の先天異常・変形：歯・口腔軟組織の異常、唇顎口蓋裂		
3	口腔粘膜疾患：水疱形成、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着を主徴とする口腔粘膜疾患		
4	顎関節疾患：顎関節症、顎関節の外傷などの顎関節疾患		
5	口腔領域の炎症：歯周組織、顎骨、顎骨周囲組織の炎症		
6	口腔領域の囊胞：顎骨内、軟組織に生じる囊胞		
7	口腔領域の腫瘍：歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍、前癌病変、腫瘍類似疾患		
8	唾液腺疾患：唾液腺の炎症、腫瘍など		
9	口腔領域の神経疾患：口腔領域の神経痛、神経麻痺、オーラルジスキネジア		
10	血液疾患と出血性素因：赤血球系、白血球系の疾患、出血性素因		
11	口腔・顔面に症状を現す症候群：形態異常や粘膜症状を表す症候群		
12	診察と診断・滅菌と消毒、インプラント治療		
13	創傷処置・口腔外科小手術・口腔出血に対する処置		
14	テスト前対策		
15	定期試験、解答解説		

■科目	歯科矯正学	■講師名	加藤 有美
I部2学年	前期	15コマ(1コマ90分授業)	総時間30時間
■学修概要			
矯正治療に必要となる不正咬合の成り立ち、診断、治療について学ぶ。 また、矯正装置、矯正器具についても学ぶ。			
■授業目的、到達目標			
矯正治療に必要な知識を習得する。 歯科衛生士が主に行うMFTについての基礎知識を習得する。			
■授業方法			
スライド、板書、実習、動画視聴など			
■教科書(書籍名・出版社)			
歯科衛生学シリーズ／歯科矯正学(第2版) 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
定期テストに加え、出席なども加味する。			
■実務経験			
日本大学松戸歯学部矯正科に勤務していた経験あり。歯科医師向けセミナー講師の経験あり。			
■授業計画(講義の流れ)			
1	概論、成長発育		
2	成長発育、正常咬合		
3	不正咬合の分類 不正咬合の原因		
4	診断		
5	診断		
6	治療学		
7	治療学		
8	歯周組織と矯正力		
9	顎変形症・症候群など、急患対応		
10	MFT		
11	矯正装置		
12	矯正装置		
13	矯正器具		
14	矯正器具		
15	定期試験、解答解説		

■科目	歯科麻酔・全身管理学	■講師名	佐々木貴大 古賀悠太																														
II部 2学年	中期	15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間 講義 2 単位																														
■学修概要	安全な歯科治療に必要な、患者のバイタルサインや、麻酔法、患者管理法についての知識および技術を獲得することを目標とする。																																
■授業目的、到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全な歯科治療に必要な、患者の全身状態（バイタルサイン）の把握と評価について学ぶ。 2. 歯科治療に伴う痛みやストレスを抑制するための麻酔法や患者管理法について理解する。 3. 高齢者や全身的疾患を有する患者の歯科治療時の注意点について学習する。 4. 緊急偶発症発現時の初期対応と救急蘇生法について学習する。 																																
■授業方法	<p>講義・実習</p>																																
■教科書（書籍名・出版社）	<p>歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ 臨床検査 医歯薬出版株式会社 歯科衛生士パスポートWeb 全身管理・感染対策・訪問診療 メディア株式会社</p>																																
■成績評価・講義上の注意	平常試験および授業態度を総合的に評価																																
■実務経験	日本大学松戸歯学部歯科麻酔講座に勤務。大学病院にて臨床経験あり。歯科麻酔・救急蘇生学について授業を行う。																																
■授業計画（講義の流れ）	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>救急処置に必要な基礎知識</td></tr> <tr><td>2</td><td>バイタルサイン、生体情報モニタ</td></tr> <tr><td>3</td><td>生体検査（生理機能検査）</td></tr> <tr><td>4</td><td>検体検査I（血液検査 1: 一般血液検査） 検体検査II（血液検査 2: 血液凝固検査、血液型検査）</td></tr> <tr><td>5</td><td>歯科治療時における全身的偶発症</td></tr> <tr><td>6</td><td>検体検査III（血液検査 3 免疫血清学的検査）</td></tr> <tr><td>7</td><td>心肺蘇生法I</td></tr> <tr><td>8</td><td>心肺蘇生法II（実習）</td></tr> <tr><td>9</td><td>全身状態評価 呼吸・循環機能の検査と評価</td></tr> <tr><td>10</td><td>全身状態評価 肝・腎機能の検査</td></tr> <tr><td>11</td><td>全身管理を必要とする疾患I</td></tr> <tr><td>12</td><td>全身管理を必要とする疾患II</td></tr> <tr><td>13</td><td>麻酔法I【局所麻酔法・精神鎮静法】</td></tr> <tr><td>14</td><td>麻酔法II【全身麻酔法】</td></tr> <tr><td>15</td><td>定期試験、解答解説</td></tr> </table>			1	救急処置に必要な基礎知識	2	バイタルサイン、生体情報モニタ	3	生体検査（生理機能検査）	4	検体検査I（血液検査 1: 一般血液検査） 検体検査II（血液検査 2: 血液凝固検査、血液型検査）	5	歯科治療時における全身的偶発症	6	検体検査III（血液検査 3 免疫血清学的検査）	7	心肺蘇生法I	8	心肺蘇生法II（実習）	9	全身状態評価 呼吸・循環機能の検査と評価	10	全身状態評価 肝・腎機能の検査	11	全身管理を必要とする疾患I	12	全身管理を必要とする疾患II	13	麻酔法I【局所麻酔法・精神鎮静法】	14	麻酔法II【全身麻酔法】	15	定期試験、解答解説
1	救急処置に必要な基礎知識																																
2	バイタルサイン、生体情報モニタ																																
3	生体検査（生理機能検査）																																
4	検体検査I（血液検査 1: 一般血液検査） 検体検査II（血液検査 2: 血液凝固検査、血液型検査）																																
5	歯科治療時における全身的偶発症																																
6	検体検査III（血液検査 3 免疫血清学的検査）																																
7	心肺蘇生法I																																
8	心肺蘇生法II（実習）																																
9	全身状態評価 呼吸・循環機能の検査と評価																																
10	全身状態評価 肝・腎機能の検査																																
11	全身管理を必要とする疾患I																																
12	全身管理を必要とする疾患II																																
13	麻酔法I【局所麻酔法・精神鎮静法】																																
14	麻酔法II【全身麻酔法】																																
15	定期試験、解答解説																																

■科 目	歯科放射線学	■講師名	岸本 瞳
Ⅱ部 2 学年	前期 8 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 15 時間	講義 1 単位
■学修概要			
歯科医業として日々行われている放射線検査がどのような位置づけにあるかを、原理的な事項から実践的な手技を含めて講義を行う。			
■授業目的、到達目標			
放射線は歯科臨床において欠かすことのできない一分野であり画像機器の進歩に伴い診断における画像検査の占める割合が増えつつある。しかしながら放射線は放射線障害という問題をかかえているために放射線の利益および害を理解し、人体における放射線の生物学的影響や防護が重要となっている。これをふまえて将来歯科衛生士になるにあたり、自身の役割を認識し、放射線を安全かつ有効に扱えるようになるために必要な基礎知識を習得することを目的とする。			
■授業方法			
パワーポイントを用いたスライド形式			
■教科書 (書籍名・出版社)			
歯科衛生士講座／歯科放射線学 永末書店			
■成績評価・講義上の注意			
成績は定期試験、平常試験、出席状況および受講態度等の総合評価をもって行う。			
■実務経験			
■授業計画 (講義の流れ)			
1	歯科医療と放射線 (概論) と放射線の性質と人体への影響		
2	写真処理と画像管理		
3	口内法エックス線検査		
4	パノラマエックス線検査		
5	その他、歯科領域で用いられる検査		
6	画像診断の臨床応用		
7	放射線治療 (まとめ)		
8	定期試験、解答解説		

■科目	高齢者歯科学	■講師名	下山 和弘
I部2学年	前期	10コマ (1コマ90分授業)	総時間 20時間
■学修概要			
超高齢社会を迎え、高齢者の QOL の維持・向上のための歯科からの対応は喫緊の課題である。歯科医療・保健・福祉に関する包括的な学習を行い、高齢者的心身に関する総合的な理解に基づく口腔健康管理の知識・技術を習得する。			
■授業目的、到達目標			
わが国では高齢化が進んでおり、高齢者の健康管理が課題となっている。高齢者歯科学の分野では口腔機能を維持・向上させることが大きなテーマとなっている。高齢者の口腔健康管理に必要な知識を修得し、チーム医療の中で高齢者の QOL の維持・向上に貢献できる能力を身につける。高齢者をとりまく社会と環境、加齢による身体的・精神的変化と疾患、高齢者の状態の把握、摂食嚥下リハビリテーション、口腔健康管理について学習する。			
■授業方法			
講義			
■教科書（書籍名・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／高齢者歯科学 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
学習態度および定期試験の点数で評価を行う。			
今まで学んできた各教科の知識を前提に講義行われる。			
■実務経験			
東京医科歯科大学大学院・歯学部および歯学部附属病院にておよそ 40 年間、教育・臨床を行った。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	高齢者をとりまく社会と環境		
2	加齢に伴う身体的機能の変化		
3	高齢者の精神・心理的変化		
4	高齢者の状態の把握		
5	高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患（1）		
6	高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患（2）		
7	高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患（3）		
8	摂食嚥下リハビリテーション（1）		
9	摂食嚥下リハビリテーション（2）、口腔健康管理		
10	定期試験、解答解説		

■科目	障害者歯科学	■講師名	下山 和弘
I部2学年	前期 8コマ (1コマ90分授業)	総時間 15時間	講義1単位
■学修概要			
スペシャルニーズ・障害を有する人を対象とする口腔の健康の維持・向上に関する知識・技術を習得するとともに、種々の専門職種との協働をはかり、生活支援、社会参加、QOLの維持・向上に寄与する知識・技術を習得する。			
■授業目的、到達目標			
スペシャルニーズのある人たちへの専門性の高い医療・保健が求められている。スペシャルニーズのある人たちの口腔の健康の維持・回復が健康の増進や社会参加に関わっている。障害の概念、歯科医療で特別な支援が必要な疾患、コミュニケーションの方法、行動調整法、摂食嚥下リハビリテーション、健康支援について、専門職として必要とされる基本的な知識を習得する。			
■授業方法			
講義			
■教科書（書籍名・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／障害者歯科学 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
学習態度および定期試験の点数によって評価を行う。 今まで学んできた各教科の知識を前提に講義が行われる。			
■実務経験			
東京医科歯科大学大学院・歯学部および歯学部附属病院にておよそ40年間、教育・臨床を行った。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	障害の概念		
2	コミュニケーションの方法、行動調整法		
3	神経発達症群		
4	運動障害（1）		
5	運動障害（2）		
6	感覚障害、音声言語障害		
7	精神および行動の障害、摂食嚥下障害とリハビリテーション、健康支援		
8	定期試験、解答解説		

■科 目	歯科予防処Ⅲ	■講師名	清水 秀子
II部 2 学年	前・中期 15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間	講義 2 単位
■学修概要 <p>う蝕に関する知識を深め、う蝕予防をより多角的に捉え実践的な知識と技術を修得する。 患者のリスクに応じたう蝕予防プログラムの立案と、フッ化物の応用、患者に指導・提案できる力を習得する。</p>			
■授業目的、到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・う蝕の原因およびう蝕予防の知識と技術を習得する。 ・フッ化物によるう蝕予防の知識と技術を身につける。 ・ライフステージやカリエスリスクに応じたう蝕予防法を考える。 ・各う蝕活動性試験の種類や方法を理解し、その結果から患者に応じたう蝕予防法まで繋げて考える。 			
■授業方法 <p>講義・実習</p>			
■教科書（書籍名・出版社） <p>歯科衛生学シリーズ／歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版</p>			
■成績評価・講義上の注意 <p>定期試験、授業・実習態度、提出物、出席状況により総合的に評価する。</p>			
■実務経験 <p>予防を中心とした歯科医院で、う蝕予防セミナーを継続的に実施 その実務経験を経て専任教員として予防処置を担当している。</p>			
■授業計画（講義の流れ）			
1	う蝕・う蝕予防処置法の基礎知識 (1)		
2	う蝕・う蝕予防処置法の基礎知識 (2)		
3	対象者の把握		
4	フッ化物の応用 (1)		
5	フッ化物の応用 (2)		
6	フッ化物の応用 (3)		
7	フッ化物の計算		
8	フッ化物溶液量確認実習		
9	フッ化物歯面塗布法実習 (1) -①		
10	フッ化物歯面塗布法実習 (1) -②		
11	フッ化物歯面塗布実習 (2)		
12	フッ化物歯面塗布実習 (3)		
13	フッ化物洗口法実習		
14	その他のフッ化物 リスク評価		
15	期末試験、解答解説		

■科 目	歯科予防処置IV	■講師名	清水 秀子
II部 2 学年	中期	15コマ (1コマ 90分授業)	総時間 30時間 実習 1単位
■学修概要 <p>う蝕予防をより多角的に捉え実践的な知識と技術を修得し、患者のリスクに応じたう蝕予防プログラムの立案と、患者に指導・提案できる力を習得する。</p>			
■授業目的、到達目標 <ul style="list-style-type: none"> う蝕予防の知識と技術を習得する。 各う蝕活動性試験の種類や方法を理解し、その結果から患者に応じたう蝕予防法まで繋げて考える。 			
■授業方法 <p>講義・実習</p>			
■教科書 (書籍名・出版社) <p>歯科衛生学シリーズ／歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版</p>			
■成績評価・講義上の注意 <p>定期試験、授業・実習態度、提出物、出席状況により総合的に評価する。</p>			
■実務経験 <p>予防を中心とした歯科医院で、う蝕予防セミナーを継続的に実施 実務経験を経て専任教員として予防処置を担当している。</p>			
■授業計画 (講義の流れ)			
1	う蝕の基礎知識		
2	う蝕発生因子		
3	う蝕の診査		
4	小窓裂溝填塞 (1)		
5	小窓裂溝填塞 (2)		
6	う蝕活動性試験とは		
7	う蝕活動性試験 (1)		
8	う蝕活動性試験 (2)		
9	う蝕活動性試験 (3)		
10	う蝕活動性試験 (4)		
11	う蝕活動性試験 (5)		
12	う蝕活動性試験 (6)		
13	う蝕予防プログラム (1)		
14	う蝕予防プログラム (2)		
15	定期試験、解答解説		

■科目	歯科保健指導Ⅱ	■講師名	藤田 幸子
II部 2 学年	後期	15コマ (1コマ 90分授業)	総時間 30時間 講義 2 単位
■学修概要			
1.歯科保健指導論Ⅰで学んだことを基礎として、対象に応じた歯科衛生教育活動の場を把握し、必要な知識、技術および態度を修得する。			
2.口腔機能低下や障害に対して、口腔機能管理と指導を行うために必要な専門的知識、技術および態度を修得する。			
■授業目的			
1.地域歯科保健における健康教育や保健指導の概要を説明できる。			
2.摂食嚥下機能の評価方法を学び、その機能を維持・増進するリハビリテーションや口腔衛生管理を習得する。			
■授業方法			
講義・演習・実習			
■教科書 (書籍名・著者・出版社)			
歯科衛生学シリーズ／歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
総合評価 (筆記試験、出欠席、授業態度、実習態度、レポート)			
■実務経験			
歯科衛生士として歯科医院、歯科衛生士学校の専任教員。介護支援専門員として高齢者施設での勤務経験を持つ。その経験を基に、様々な場面において根拠を持って歯科保健指導ができるよう講義、実習を行いたいと考えている。			
■授業計画 (講義の流れ)			
1	地域歯科保健活動の概要		
2	地域歯科保健活動① (保育所・幼稚園)		
3	地域歯科保健活動② (学校)		
4	地域歯科保健活動③ (事業所)		
5	地域歯科保健活動④ (保健所・市町村保健センター)		
6	地域歯科保健活動⑤ (地域・病院・施設)		
7	地域歯科保健活動まとめ		
8	摂食嚥下リハビリテーションの概要		
9	摂食嚥下リハビリテーション① (基礎演習)		
10	摂食嚥下リハビリテーション② (スクリーニングテスト)		
11	摂食嚥下リハビリテーション③ (口腔衛生管理)		
12	摂食嚥下リハビリテーション④ (間接訓練・直接訓練・食事支援)		
13	歯科保健指導Ⅱまとめ①		
14	歯科保健指導Ⅱまとめ②		
15	定期試験、解説		

■科目	歯科保健指導Ⅲ	■講師名	清水 秀子
II部 2 学年	後期 15 週	15 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間 演習 1 単位
■学修概要 <p>1 年次の歯科保健指導Ⅰの学習内容と臨床実習での学びをもとに国家試験に対応できる知識と臨床に活かせる指導技術を体得する。</p>			
■授業目的 <p>歯科保健指導及び歯科衛生教育の基礎的技法を修得し、臨床および公衆衛生または年齢対象別にさまざまな状況に十分対応し得る能力を培い、実践できるようにする。</p>			
■授業方法 <p>講義、グループワーク、グループディスカッション、発表</p>			
■教科書 (書籍名・著者・出版社) <p>歯科衛生学シリーズ／歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版</p>			
■成績評価・講義上の注意 <ul style="list-style-type: none"> 授業態度、出席状況 医療従事者としての基本的な態度、身だしなみ 保健指導の技術 (伝わりやすい発声、言葉選び、表情など) 			
■実務経験 <p>歯科医院における予防業務、う蝕予防教室における講師経験および歯科医療機器メーカーでのセミナー経験を持つ。そのような実務経験から行動変容につながる保健指導を考えていきたい。</p>			
■授業計画 (講義の流れ)			
1	保育園口腔衛生活動実施目的		
2	小児の発達段階を考える		
3	指導案作成①		
4	指導案作成②		
5	台本・媒体作成①		
6	台本・媒体作成②		
7	台本・媒体作成③		
8	発表練習		
9	発表練習		
10	指導練習 (発表とフィードバック)		
11	指導練習 (発表とフィードバック)		
12	修正・練習		
13	修正・練習		
14	最終発表		
15	最終発表		

■科目	歯科診療補助Ⅲ		■講師名	猪島恵美子
II部2学年	前期	15コマ(1コマ90分授業)	総時間30時間	講義2単位
■学修概要				
歯科診療の補助を行える歯科衛生士になるために必要な基本知識をつけ、医療人としての心構えを理解し、臨床における補助実習を行うことで技能と態度を修得する。				
■授業目的、到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士が行う歯科診療の補助の概念を説明できる ・各臨床科目（保存修復、歯内療法、歯周療法、口腔外科、歯科補綴）に沿った歯科診療の補助を実践できる ・対象者に合わせた口腔機能管理を模倣できる 				
■授業方法				
講義、実習				
■教科書（書籍名・著者・出版社）				
歯科衛生学シリーズ／歯科診療補助論 医歯薬出版				
歯科衛生学シリーズ 医歯薬出版他				
■成績評価・講義上の注意				
授業態度、実習態度、出席状況、提出物、定期試験の総合評価				
■実務経験				
一般歯科医院での歯科衛生士業務の実務経験があり、かつ歯科衛生士学校の専任教員として基礎実習の担当も行っている。全国歯科衛生士教育協議会では教育委員を務めており、日本歯科衛生教育学会、日本歯科衛生学会に所属している。				
■授業計画（講義の流れ）				
1	保存修復の診療補助①（前準備、直接・間接修復、ホワイトニング）			
2	保存修復の診療補助②（コンポジットレジン、グラスアイオノマー修復）			
3	保存修復の診療補助③（Tooth wear）			
4	保存修復の診療補助④（修復物の研磨）			
5	歯内療法の診療補助①（歯内療法で使用する器材と主な術式）			
6	歯内療法の診療補助②（歯内療法での介助、材料の取り扱い）			
7	歯周療法の診療補助①（歯周治療で使用する器材と主な術式）			
8	歯周療法の診療補助②（歯周治療での介助、材料の取り扱い）			
9	口腔外科の診療補助①（インプラント治療における診療の介助と口腔管理）			
10	口腔外科の診療補助②（口腔外科における歯科衛生士の役割、全身麻酔）			
11	口腔外科の診療補助③（口腔外科で使用する器材と主な術式）			
12	口腔外科の診療補助④（口腔外科での介助、器材の取り扱い、個人防護具）			
13	歯科補綴の診療補助①（歯科補綴での歯科衛生士の役割、補綴物の特徴、補綴で使用する材料）			
14	歯科補綴の診療補助②（補綴治療での介助、補綴で資料する器材）			
15	定期試験 解答解説			

■科 目	歯科診療補助IV	■講師名	猪島恵美子
II部 2学年	中期	20コマ (1コマ90分授業)	総時間 40時間 実習 1単位
■学修概要			
歯科診療の補助を行える歯科衛生士になるために必要な基本知識をつけ、医療人としての心構えを理解し、臨床における補助実習を行うことで技能と態度を修得する。			
■授業目的、到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士が行う歯科診療の補助の概念を説明できる ・各臨床科目（歯科補綴、歯科矯正、小児歯科、歯科放射線、高齢者歯科、障害者歯科、臨床検査）に沿った歯科診療の補助を実践できる ・対象者に合わせた口腔管理を模倣できる 			
■授業方法			
講義、実習			
■教科書（書籍名・著者・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／歯科診療補助論 医歯薬出版			
歯科衛生学シリーズ／臨床科目 医歯薬出版他			
■成績評価・講義上の注意			
授業態度、実習態度、出席状況、提出物、定期試験の総合評価			
■実務経験			
一般歯科医院での歯科衛生士業務の実務経験があり、かつ歯科衛生士学校の専任教員として基礎実習の担当も行っている。全国歯科衛生士教育協議会では教育委員を務めており、歯科衛生教育学会、歯科衛生学会に所属している。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	歯科補綴の診療補助③（補綴装着患者の口腔管理）		
2	歯科補綴の診療補助④（暫間被覆冠の作製）		
3	歯科補綴の診療補助⑤（義歯の取り扱い）		
4	歯科矯正の診療補助①（歯科矯正の歯科衛生士の役割、歯科矯正で使用する器具）		
5	歯科矯正の診療補助②（歯科矯正時の情報収集、歯科矯正での患者指導）		
6	歯科矯正の診療補助③（口腔筋機能療法）		
7	小児歯科の診療補助①（小児への歯科的対応、小児歯科での介助）		
8	小児歯科の診療補助②（行動療法、抑制法、口腔機能不全症）		
9	歯科放射線の診療補助①（放射線の人体への影響と防護、撮影法、画像管理）		
10	歯科放射線の診療補助②（レントゲン撮影の介助）、歯科矯正：口腔内写真撮影		
11	高齢者歯科の診療補助①（高齢者への歯科的対応、歯科訪問診療）		
12	高齢者歯科の診療補助②（口腔機能低下症）		
13	障害者歯科の診療補助①（障害者への歯科的対応、ライフステージごとの歯科的アプローチ）		
14	有病者の歯科診療補助①（有病者への歯科的対応、業務時の救急処置、災害支援活動）		
15	口腔機能管理①（臨床検査）		
16	口腔機能管理②（臨床検査）		
17	口腔機能管理③（摂食嚥下訓練）		

18	口腔機能管理④（歯科衛生過程）
19	口腔機能管理⑤（歯科衛生過程）
20	定期試験、解答解説

■科 目	臨床・臨地実習 I	■指導教員	各歯科医院の歯科医師、歯科衛生士
■時 期	II部 2学年 中期・後期 火・水・金	■時間数	総時間 450 時間 臨実 10 単位
■一般目標 (GIO)			
歯科診療所における臨床実習を通して歯科衛生士の役割を理解する。また、医療現場に立った際に必要とされる知識と技術にとどまらず、コミュニケーション能力を養う。			
■臨床実習施設 歯科診療所			
■参考図書等 臨床実習要領			
■成 績 評 価 臨床実習評価表、臨床実習ノート、出席状況により総合的に評価する。			
■学習計画	一般目標(GIO)	到達目標(SBOS)	
1 クール 10 月～12 月	履修した講義・実習により習得した基礎的な知識・技術を理論的に整理し、医療従事者の指導の下に歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導の理解を体系的に深める。 また、患者や歯科医療に携わる方々との触れ合いの中から人間的な修練を積み、社会が期待する歯科衛生士となる基礎を築くことを目標とする。	①各診療の流れや手順を理解する ②各診療に必要な器具・器材の準備を補助する ③各診療に用いられる薬剤・材料の使用を補助する ④各診療の補助を模倣する ⑤清潔・不潔を区別する ⑥スタンダードプリコーションを見学する ⑦医療廃棄物について説明する ⑧一般廃棄物と医療廃棄物を分別する ⑨器具・機材の滅菌を補助する ⑩安全な器具の受け渡しを見学する ⑪拔歯について目的・手順・使用器具を述べる ⑫スケーリングを補助する ⑬スケーリングを模倣する ⑭口腔清掃指導を見学する ⑮口腔清掃指導を模倣する ⑯歯面清掃を補助する ⑰歯面清掃を模倣する ⑱フッ化物歯面塗布を補助する ⑲小窩裂溝填塞を見学する ⑳歯科医師、歯科衛生士の指示を受け患者の誘導をする ㉑患者とコミュニケーションを取る ㉒患者への配慮をする ㉓対象者に合わせた歯科保健行動について説明する ㉔多職種と連携をとる	
2 クール 1 月～3 月			

■科 目	歯科保険請求事務	■講師名	齋藤 育子
I 部 2 学年	後期 8 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間	15 時間 講義 1 単位
■学修概要			
<p>歯科医院における医療事務を遂行するにあたり必要な能力を育成する。</p> <p>歯科疾患を説明する。点数算定の仕組み（各診療行為の算定におけるルール）を説明する。</p> <p>これらの知識をふまえた上でレセプト作成を行う。</p>			
■授業目的、到達目標			
<p>医療保険制度を理解することができる。</p> <p>疾患別の治療方法を学び治療の流れを理解することができる。</p> <p>点数算定の仕組み（各診療行為におけるルール）を理解することができる。</p>			
■授業方法			
講義形式			
歯科疾患、治療の流れ、点数算定の仕組み等の知識をふまえた上でカルテの点数算定をし、レセプト作成をする。			
■教科書（書籍名・出版社）			
使用しない			
■成績評価・講義上の注意			
平常点（授業への参加・意欲）・・30% 提出物（レセプト）・・20% 定期試験・・50%			
■実務経験			
<p>歯科衛生士、医療事務管理士の資格を有し歯科衛生士として診療所、保健所（10年間）勤務する。</p> <p>医療事務管理士として保険請求事務を昭和60年より現在まで行う。また、平成21年より医療系専門学校、歯科衛生士学校、短期大学にて歯科医療事務講座を担当し現在に至る。</p>			
■授業計画（講義の流れ）			
1	歯科医療事務への導入 口腔の基礎知識		
2	投薬		
3	疾患別症例（う蝕症）		
4	疾患別症例（歯内療法）		
5	疾患別症例（歯周疾患）		
6	疾患別症例（口腔軟組織疾患・手術）		
7	まとめ・試験対策		
8	定期試験 解答解説		

■科 目	総合臨床 1	■講師名	猪島 恵美子
II部 2 学年	前期	15コマ (1コマ90分授業)	総時間 30時間
■学修概要			
これまで学んだ知識を臨床実習で活かし、さらに、国家試験に合格できる実力を確保する学修方法を学ぶ。臨床実習で必要な知識を再度学ぶことで、それらの必要性を改めて認識し、さらに整理・総まとめを行う。			
■授業目的、到達目標			
歯科医学の基礎、臨床へと繋がる一連の学問体系の中で、臨床に有用な知識を、演習を行うことで発展させることが目的である。			
■授業方法			
講義・演習			
■教科書（書籍名・出版社）			
各種教科書 歯科衛生士書き込み式学習ノート①～④ / 医歯薬出版 ①専門基礎科目編 ②社会歯科系科目編 ③臨床科目編（上） ④臨床科目編（下）			
■成績評価・講義上の注意			
授業態度、出席状況、提出物の総合評価			
■実務経験			
一般歯科医院での歯科衛生士業務の実務経験があり、かつ歯科衛生士学校の専任教員として基礎実習の担当も行っている。全国歯科衛生士教育協議会では教育委員を務めており、日本歯科衛生教育学会、日本歯科衛生学会に所属している。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	専門基礎科目編の復習①		
2	専門基礎科目編の復習②		
3	専門基礎科目編の復習③		
4	専門基礎科目編の復習④		
5	専門基礎科目編の復習⑤		
6	社会歯科系科目編の復習①		
7	社会歯科系科目編の復習②		
.8	臨床科目編①		
.9	臨床科目編②		
10	臨床科目編③		
11	臨床科目編④		
12	臨床科目編⑤		
13	臨床科目編⑥		
14	臨床科目編⑦		
15	定期試験、解答解説		

■科目	総合臨床2	■講師名	猪島 恵美子
II部2学年	後期	8コマ (1コマ90分授業)	総時間 15時間 講義1単位
■学修概要			
これまで学んだ知識を臨床実習で活かし、さらに、国家試験に合格できる実力を確保する学修方法を学ぶ。臨床実習で必要な知識を再度学ぶことで、それらの必要性を改めて認識し、さらに整理・総まとめを行う。			
■授業目的、到達目標			
歯科医学の基礎、臨床へと繋がる一連の学問体系の中で、臨床に有用な知識を、演習を行うことで発展させることが目的である。			
■授業方法			
講義・演習			
■教科書（書籍名・出版社）			
各種教科書 歯科衛生士書き込み式学習ノート①～④ / 医歯薬出版 ①専門基礎科目編 ②社会歯科系科目編 ③臨床科目編〈上〉 ④臨床科目編〈下〉			
■成績評価・講義上の注意			
授業態度、出席状況、提出物の総合評価			
■実務経験			
一般歯科医院での歯科衛生士業務の実務経験があり、かつ歯科衛生士学校の専任教員として基礎実習の担当も行っている。全国歯科衛生士教育協議会では教育委員を務めており、日本歯科衛生教育学会、日本歯科衛生学会に所属している。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	臨床科目編⑧		
2	臨床科目編⑨		
3	臨床科目編⑩		
4	国家試験に向けて①		
5	国家試験に向けて②		
6	国家試験に向けて③		
7	国家試験に向けて④		
8	定期試験、解答解説		